医師・看護師・介護職員の大幅増員を

日本医労連増員闘争ニュース

第 100 号
2010 年 8 月 6 日
日本医労連増員闘争本部
TEL:03-3875-5871
FAX：03-3875-6270

中日新聞
2010年(平成22年)8月6日(金曜日)

人手不足 過重労働

看護師7割 慢性疲労訴え

県内病院 実態調査

鎮痛剤や睡眠剤 薬常用6割

県内の病院の労働実態調査で、慢性的な疲労に悩む看護師が七割近くに上ることが分かった。健康状態に不安を抱えたまま勤務している人も六割近い。調査した労働組合の関係者は「人手不足、過重労働、退職、そしてまた人手不足という悪循環を断ち切るには、看護職員の増員や過密労働の軽減が急務」と訴える。

（宮崎健太朗）

調査は、愛知県医療公共、民間病院に勤務する看護師を対象に実施。男女千七百六十人から回答があった。

残業や夜勤が日常的な過酷な労働環境だけに、「疲れが翌日に残ることが多い」との回答が47・8%、「休日でも回復せず、いつも疲れている」が20・1%で、いわゆる慢性疲労を抱える人が67%に上った。

身を削りながらの勤務だけに、健康状態が「不安」との答えが46・6%、「大変不安」が8%、「病気がちで健康といえない」が2・6%。症状を尋ねると「腰痛」「なんとなくイライラする」「寝つけない」（39・5%）―などの声が上がった。鎮痛剤や睡眠剤など、何らかの薬を常用している人も六割近くいた。

仕事への意欲では、「辞めたいというも思う」が20%、「ときどき」と「全身がだるい」き辞めたいと感じ」が57・2%。辞めたい理由（複数回答）は「人手不足で仕事がきつい」（43・9%）、「賃金が安い」（41・3%）、「思うように休暇が取れない」（39・5%）―などが目立った。

県医労連は九月のキャラバン行動で、県などに「夜勤時間や回数の制限、看護師確保」を要望するほか、街頭で白衣の看護師による署名活動やリレートークを計画している。

中日新聞の愛知県版
「キャラバン行動」含めて記事掲載

愛知県医労連は、「看護職員の労働実態調査」を７月 14 日に記者発表しました。３週間後の今日８月６日、中日新聞県内版に掲載されました。

「増員や過密労働の軽減を訴え、県医労連は９月のキャラバン行動で、県などに夜勤時間や回数の制限、看護師確保を要望する」と、９月９日から開始する「いのちまもる全国縦断キャラバン行動」について報道。

日本医労連のキャラバン行動も準備が進んでいます。大幅増員、夜勤制限、おおいに世論を作っていきましょう！

「看護職員需給見通し」に関する県へのヒアリングが９月までに行われます。各県への交渉・要請が重要です。東京は８月 31 日予定！

山形県医労連
「白衣の平和行動」に８０名参加

山形県医労連では、８月６日に「原水爆禁止・核兵器廃絶」をめざした白衣の平和行動を例年行っています。今年も酷暑の中、やりました！！県内４ヵ所で行った行動には 80 名参加で 400 筆の署名を集約。テレビの取材もあり、夕方には放送される予定です。

若い看護師さんも笑顔で頑張りました